

◀ 港 便 り ▶

思いつくまま「よこはま」(3)

社団法人横浜港振興協会 永 田 隆

横浜港は1859年（安政6年）に開港しました。2年前の2009年に開港150周年を迎え、開国博「Y150」が開催されましたが、有料入場者数が当初の目論見より大幅に下回ったため、少しばかり後味の悪いものになりました。しかし、周辺には観光客が例年より多く集まり、中華街などは2割程度増えたとの話もありました。経済状況が厳しいときのこうしたイベントは難しいものがありますが、内容が大事だという教訓を得たということになるのでしょうか。

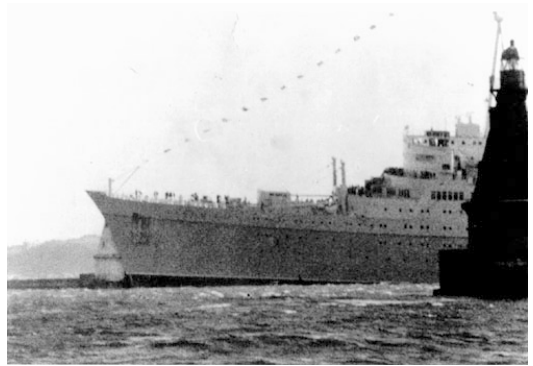
開港後、明治22年9月に開始された横浜築港工事は、東水堤（とうすいてい）約1,600m、北水堤（きたすいてい）約2,000mの両防波堤を築造し、約240mの港口によって約490haの水面積を確保したものです。その中に長さ約700mの鉄栈橋（現在の大きな橋の前身）を建設しました。東水堤は山下ふ頭側、北水堤は瑞穂ふ頭側をいいます。

この防波堤の設計は、日本で最初の近代水道が横浜に誕生した時の指導をした英国人のヘンリー・スペンサー・パーマーが行ったものです。

現在の防波堤は、山下ふ頭と瑞穂ふ頭のなかに一部が埋まっており、その長さが想像できませんが、大変な工事であったようです。なおパーマーは、病により工事の完成をみずに死去しています。

現在の北水堤には赤灯台が設置されていますが、東水堤には白灯台が見当たりません。白灯台は実は設置されていたのです。昭和33年4月に客船「カロニア号」が出航時にぶつ

けるとい事故がありました。その時の衝撃的な写真が神奈川新聞社にありましたので紹介します。



客船「カロニア」号の事故

この事故が原因で白灯台がなくなったわけではなく、キッチリ復元されたのですが、山下ふ頭の工事の際に撤去されたそうです。その白灯台は、山下公園に行くと見つけることができます。公園前面の海上に係留されている「氷川丸」の乗船口に行くとその光景を目にすることができます。



「氷川丸」の乗船口から見える白灯台

山下ふ頭は、昭和28年から埋立てを開始し、昭和38年に完成しました。

面積は47.1ヘクタール、10バース、8つの物揚場、10棟の公共上屋があり、主に東南アジアや中近東航路の貨物船に利用されている在来貨物中心のふ頭です。このふ頭は、瑞穂ふ頭が米軍に接収され、その使用が無期限とされたことに対する代替として建設されたものです。

山下ふ頭については、何年も前から再開発の話題があります。第二のみなとみらい地区にしたらどうか、市民に開放できないか、と

いった意見が出されています。コンテナ化の進展に伴って在来貨物が減少したとはいえ、まだまだ山下ふ頭には本牧ふ頭のバックヤードとしての役割があり、倉庫群の移転場所や新山下地区の再開発との関係など、解決しなければならない課題が山積んでいます。

個人的には、先端から山下公園側の部分を一般開放するエリアとし、マリーナやレストランなどを配置し、その他の部分の倉庫群は大型倉庫として建て替えをしてみたらどうかと思っています。皆様のご意見はいかがでしょうか。

“内航海運の省エネ診断”を実施中です。是非、私どもにご相談下さい。

ルール化により、海運企業にも低炭素化社会への対応が要請されています。

<私どものアピール>

- ・開発した「省エネルギー支援ソフト」(自己診断)の活用、提供
- ・データ入力で即、自動計算。グラフ化による「見える化」で相互理解を!
- ・自己分析に必要なクールな第三者の目
- ・大きな投資を伴わない運航上の工夫による省エネの達成
- ・経験豊富な診断員の訪船調査
- ・省エネセミナーの実施、コンサルタント

私どもは、(公財)日本財団殿のご支援、国土交通省海事局のご指導を受け、“内航海運の省エネルギー診断”のお手伝いをさせて頂いております。



関係者全員がメリットを享受できるように!

「リスクからビジネスチャンスへ」

船舶の省エネに関するご相談、省エネ診断のご要請があれば、下記にご一報ください。

一般社団法人日本船舶機関士協会 省エネ事務局

TEL:03-3264-2518, Fax:03-3264-2519

Email: me-honbu@marine-engineer.or.jp

担当者: 廣瀬 (ひろせ)、岩田 (いわた)